

縄文土器文様から読み解く地域間の集団

宮尾 亨（新潟県立歴史博物館）

1 前提

山内清男（1937）が確立した「型式」を年代的の単位とした縄文土器編年を前提に、資料数の増加にあわせて提案された小林達雄（1967,1977,1978,1989等）の縄文土器の様式は、年代的の単位である「型式」それぞれに固有の特徴、あるいはいくつかの「型式」に共通する特徴を、モノの実体化仮説を仲介に、共通の雰囲気や有する一群の土器をまとめたものである。それゆえに縄文土器の様式は、年代の指標となると同時に、地域のひろがりや把握できる概念となっている。一方でそれは多少の伸縮を繰り返しながら一定の範囲に収まり、核地域と評価される地盤的領域が推定されている。小林達雄の縄文土器様式論は、範型、形式、型式、様式、概念が用意され、土器とそれを製作する人間との関係性と一連の過程が説明されている。土器の外形的な特徴に基づいた分類だけで、範型や形式を特定することは難しいが、型式と様式とは、土器の外形的な特徴に基づいた分類を再構成して、具体的なモデルを提示できる。そこで型式を単位に同じ様式によって措定される集団のありようを推察する。

ところで縄文土器の各様式は、出土遺跡の地理的位置を俯瞰することで認識される。遺跡は特定の地点を占有し、日常的な面接関係を取り結んだ居住者が生活の痕跡を残した活動拠点であり、集落と概念化される場所である。縄文土器の各様式のひろがりや、同一様式に分類できる土器を出土する遺跡によって認識される。それらの遺跡によって想定される同一様式の占める領域は、遺跡それぞれを占有した居住者、あるいは彼らの組織した集団の成り立ちと遺跡間にまたがる彼らの関係の複合的なありようを反映したもののみなせよう。そこで集落の概念化される遺跡を単位として、遺跡それぞれにおける集団と遺跡間の関係から地域間の集団をみる。

2 縄文時代後期初頭の三十稲場式土器様式の構成

蓋を含む点に個性があり、蓋に対応する如き「く」の字状に外反する頸部の深鉢を主要なカタチとしている。また4単位の橋状把手や胴部の刺突文に特色を有し、2ないし3段階の変遷が整理されている（田中 1985）。三十稲場式土器は関東地方の堀之内式土器との対比から越後の土器型式として設定（斎藤 1937）され、新潟県を中心として信濃川・阿賀野川流域に分布するきわめて地域色の濃い土器型式である（田中 1990）。

多様な文様や突起などの付属物を特徴とする縄文土器の製作過程は、粘土や混和材、製作に要するその他の資材の入手にはじまり、少なくとも成形・整形、施文の段階を踏むことが仮定できる。三十稲場式土器様式を特色づける器形と橋状把手のような付属物、胴部の刺突文などの文様を、成形と整形の過程を反映する要素として抽出し、これらの要素の組合せによって、10型式を設定した。この10型式について、編年研究の成果と、型式それぞれの要素の組合せの関係を考慮して、共時性を示す段階と通時性にかかわる系統とを設定した。すなわち、1期5型式と2期5型式の二段階、深鉢形土器 type 1→type 5、type 2→type 6あるいはtype 8、type 3または4→type 7、蓋 type 21→type 22、それぞれの系統である。この10型式について、新潟県から福島県にかかる36遺跡について、それぞれの型式構成を把握した。

3 三十稲場式土器様式の構成にみる遺跡内の集団

三十稲場式土器様式では、すべての型式の存在を確認できた遺跡は、1期2遺跡、2期4遺跡に過ぎない。大部分の遺跡は1～2型式が欠落し、遺跡それぞれの型式構成に地域性はない。土器様式のひろがりやをみれば、周辺域ほど欠落が多くなりそうに思われるが、海を挟む佐渡島の遺跡でも、ほぼ同様の構成である。また1期と2期の段階変遷のなかで、型式相互に系統の連続をすべて追跡できる遺跡も存在しない。全遺跡で型式それぞれの系統は途絶える。1期と2期とで型式構成の数が変化しない遺跡でも、消滅した型式に替わって別の系統に属する型式が加わっている。

型式それぞれの分布パターンをみると、三十稲場式土器様式のひろがりやに対応する全域パターン、地勢に対応する山間パターンと海岸パターンのいずれかを示すが、分布パターンが同じであっても、遺跡それぞれの型式構

成には反映していない。それとともに遺跡それぞれの型式構成と型式の分布パターンから、各遺跡は内外に異なる集団関係を形成していたと推察される。そして、段階ごとの変化から集団関係が固定された継続的な関係ではなく、離合集散の想定される集団関係の組織されていたことが窺われる。

4 三十稲場式土器様式の遺跡ネットワークに地域間の集団関係を探る

三十稲場式土器様式では、1期5型式、2期5型式を設定したので、型式の共有を介して、少なくとも10の遺跡間ネットワークが理解できる。型式それぞれの分布パターンを示す遺跡は、相互に直接のつながりがあったと仮定し、それらの遺跡ネットワークをランク1の地域間の集団間関係とする。次に異なる型式をふたつ合わせて確認できる遺跡を結節点として、型式の共有が相互にない遺跡について、その結びつきを仮定できる遺跡ネットワークをランク2の地域間の集団間関係とする。以下、同様にランク3、4、5・・・と遺跡ネットワークを設定できるが、三十稲場式土器様式では、設定した型式すべてを有する遺跡がいくつか存在するので、ランク3のネットワーク以上の遺跡間は存在しない。

このように遺跡ネットワークを整理すると、具体的な経路は判断できないが、遺跡間相互の直接、間接のつながりを把握できる。同時に型式構成数の多い遺跡は、ネットワークの拠点的集落と評価できるとともに、型式の分布の要衝ともみなせよう。型式構成数の多い遺跡は、各型式の分布パターンの重なる地勢的位置に多く、核地域と評価できるようにみえるが、同時に土器様式のひろがりや縁辺とみなせるところにもあることから、地理的条件が遺跡ネットワークの拠点化の背景ではないことがわかる。そして、遺跡ネットワークの拠点であっても、型式の系統が連続することはなく、離合集散のあった緩やかな組織性を窺える。また、型式の系統で分布パターンが共通するわけではなく、遺跡間の関係が普遍的でないことを物語っている。

5 三十稲場式土器様式の深鉢胴部文様の施文具による変異

三十稲場式土器様式の深鉢は、口縁部と胴部とを区切り、口縁部を無文に、胴部に施文具の特徴が直接的に反映した文様で構成されている。深鉢に設定した型式（type 1～8）は、刺突文を代表とする胴部文様で細分していないので、施文具の違いを直接的に反映した「縄文」「燃糸文」「条痕文」「刺突文」の多様性がある。

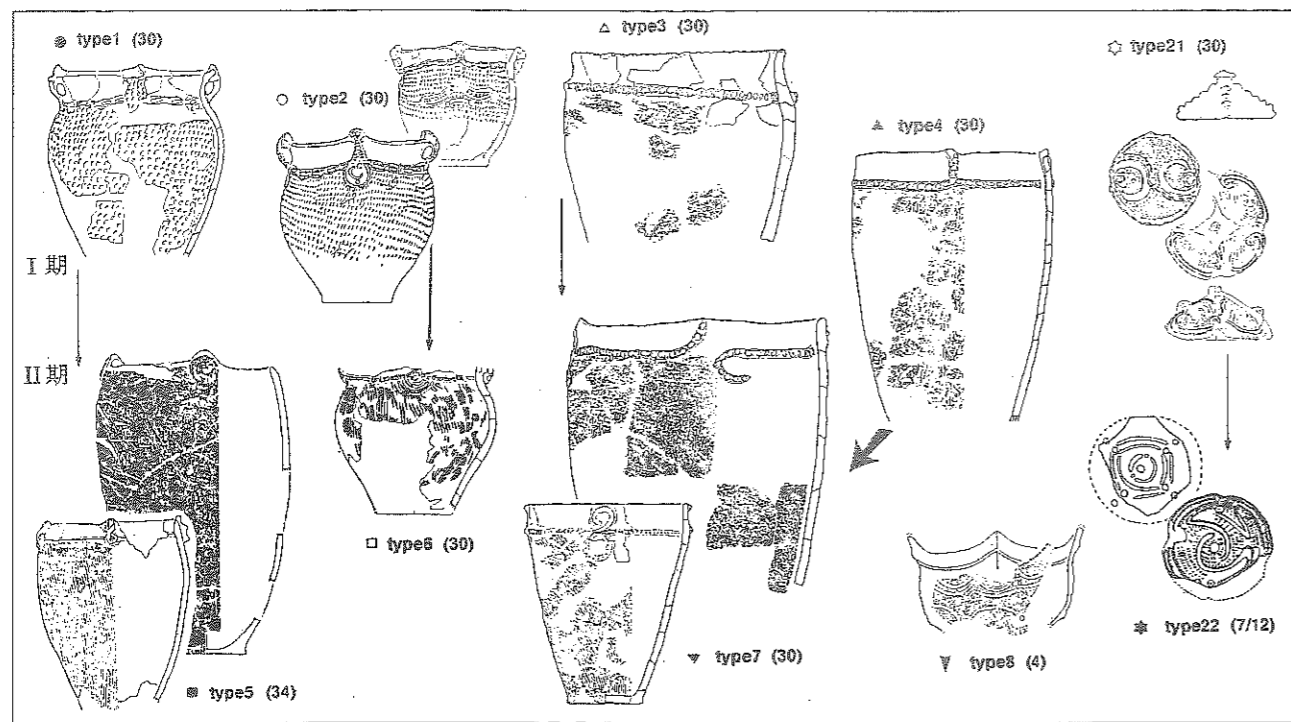
施文具の違いによって生じる胴部文様の多様性を、各型式内の変異と理解した場合、各型式内における変異は、段階ごとに特定の型式に偏り、変異の多い型式が、特定の遺跡に限られている。それは型式構成数の多い遺跡であり、遺跡間ネットワークの結節点となる遺跡である。あわせて変異の多い型式の数には、遺跡間で差が認められ、変異の多い型式を多く有する遺跡は、地理的なまとまりをもたず、地勢にも共通性がない。

また、遺跡それぞれで変異が多い型式は、段階ごとに異なるため、それらは同じ系統に位置づけられない。つまり、変異の多い型式が遺跡という同一地点内で型式変化するのではなく、異なる地点の結びつきが関与して、遺跡間を推移するように型式変化することを示唆している。

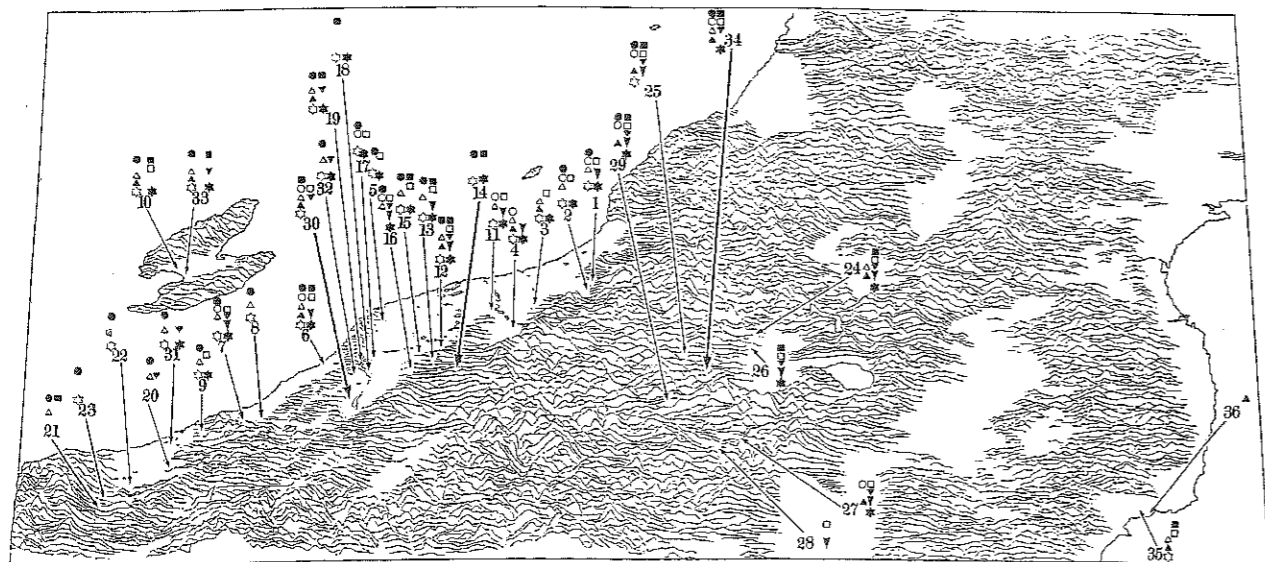
6 三十稲場式土器様式のひろがる地域の縄文時代中期中葉の火炎土器様式

火炎土器様式は、三十稲場式土器様式とほぼ同じ地域を地盤的領域とする縄文時代中期中葉の土器様式である。馬高遺跡（中村 1958）出土の火焰土器（A式1号）によって特徴づけられる。火炎土器様式は、文様構造（今福 1990）が共通しながら、四単位の鶏頭冠突起とその間の鋸歯状のフリルという特色を有する火焰型土器と、四単位の波状口縁で波頂部に短冊状突起のある王冠型土器とが区別される。

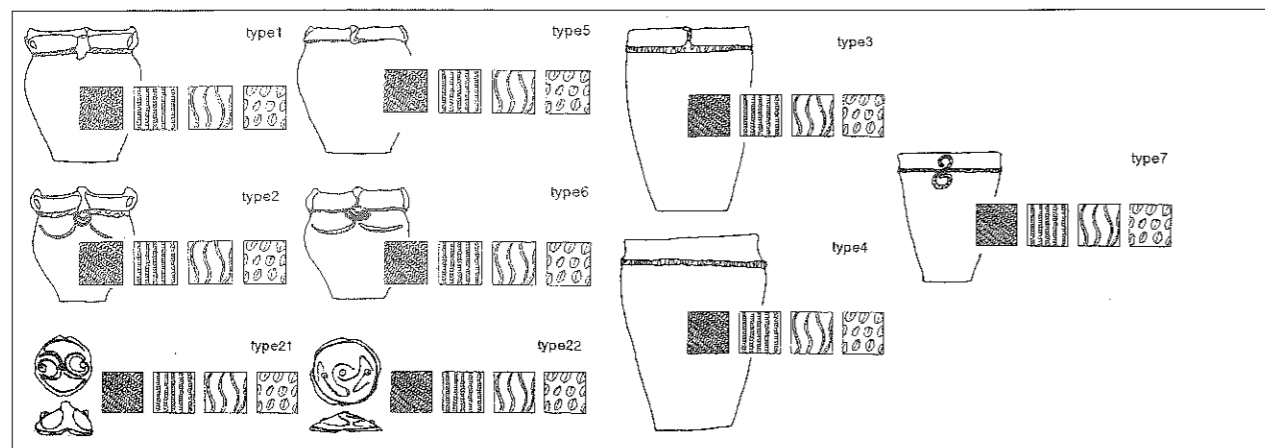
火焰型土器では鶏頭冠突起の尻尾が、個体によって正面からみて左側と右側とにある。一方、王冠型土器では短冊状突起の挿入が正面からみて左側にしかない。これらの突起は、器面を覆う隆起線文様とともに、粘土紐で造形されており、一本の粘土紐をS字状にひねって利用する場合と、C字状の粘土紐二本を組み合わせる場合とがある。火焰型土器の鶏頭冠突起や王冠型土器の短冊状突起を形成する粘土紐のS字とC字の使われ方を調べると、出土遺跡に地域性があり、S字状の粘土紐で造形された尻尾が右にある鶏頭冠をもつ火焰型土器が、火炎土器様式のひろがる周縁、とくに福島県や栃木県の遺跡にある一方、尻尾が左にある鶏頭冠をもつ火焰型土器は新潟県の遺跡にほぼ限られる。また、S字状の粘土紐で造形された王冠型土器の短冊状突起は、新潟県のみならず日本海沿岸の秋田県や山形県にいたる広範囲の遺跡にあり、地域間の集団を考えるうえで示唆的である。



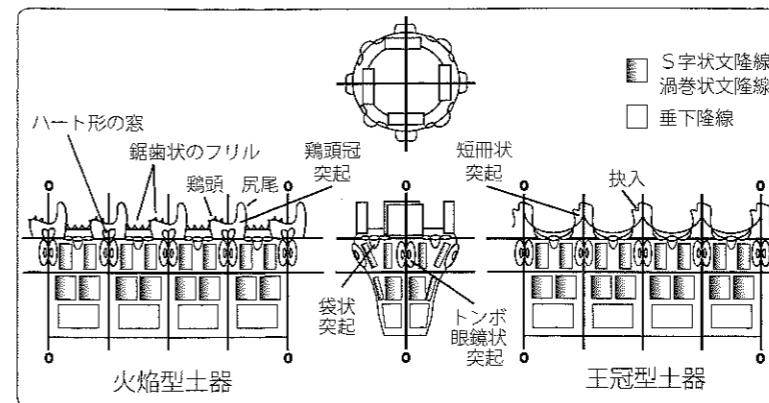
三十稲場式土器様式の構成 (宮尾 1994)



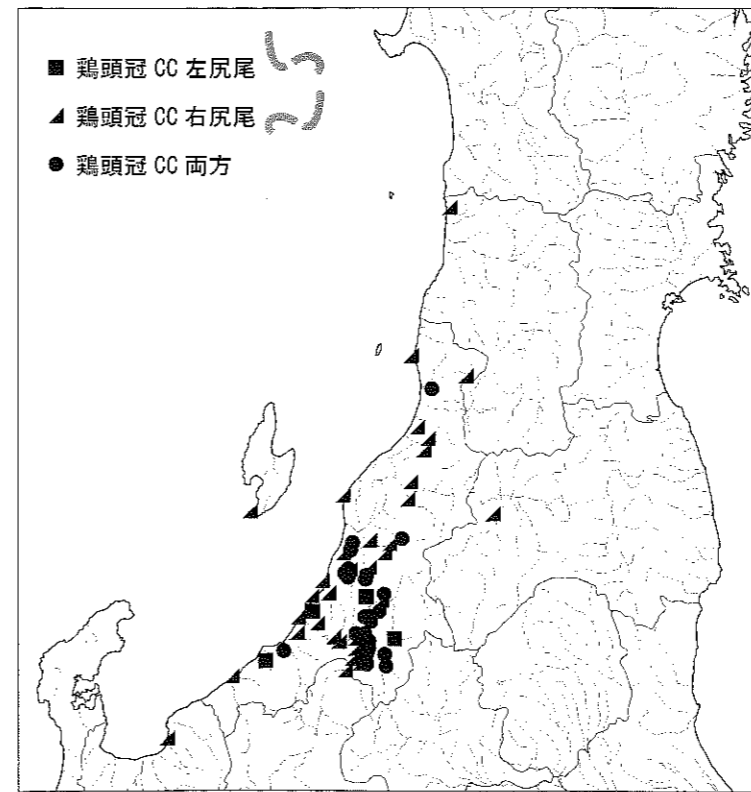
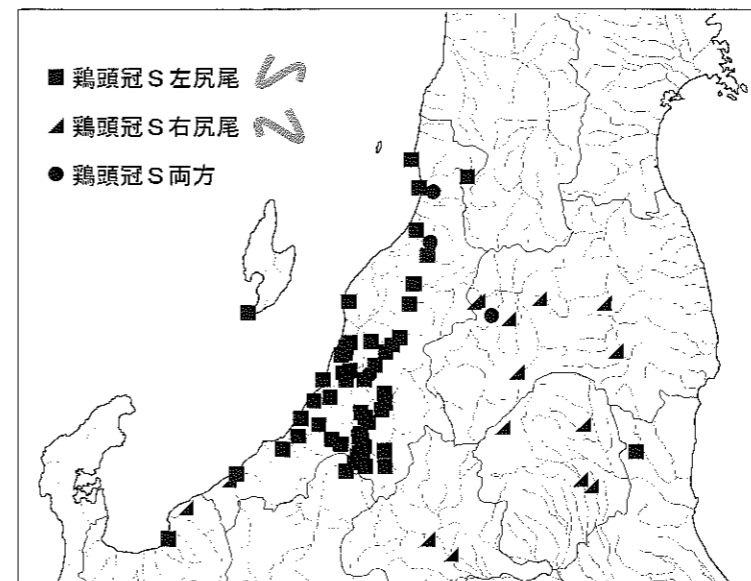
出土遺跡における三十稲場式土器様式の構成 (宮尾 1994)



三十稲場式土器様式の深鉢胴部文様の施文具による変異 (宮尾 1995)



火炎土器様式の文様構造と部位名称 (今福 1990 改変)



出土遺跡における火炎土器様式の火焰型・王冠型の突起を構成する粘土紐のかたち



新潟県長岡市馬高遺跡の火炎土器様式 (中村 1958 抜粋)

